有識者会議アンケート 結果分析

令 和 3 年 1 1 月 1 日 特定分野に特異な才能のある児童生徒に 対する学校における指導・支援の在り方 等に関する有識者会議 (第4回)

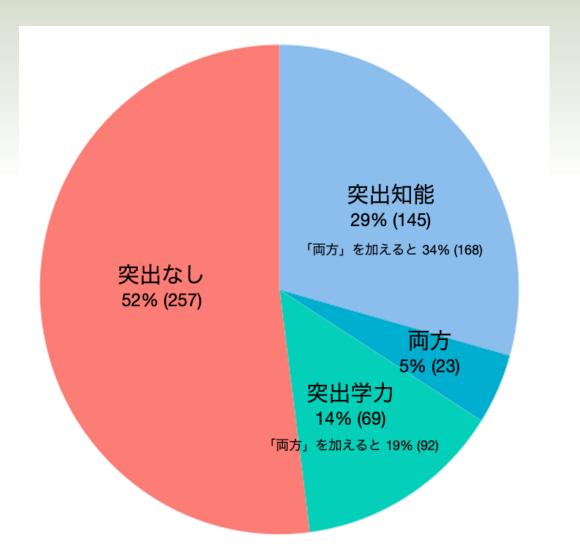
資 料

松村 暢隆

- ■「保護者・小学校」(幼稚園も含まれる) 有効回答者494名の各問への回答(事例1)
 - → 記述内容からカテゴリー分類
 - → 人数集計、全体に対する人数比率を算出
- *中高生・本人・その他については未分析:過去を振り返って年代がずれる、小学校時代も混じる等で属性が入り組むため
- *回答は自由記述のため、選択肢・綿密な質問なら 人数は変動しそうで、またカテゴリー分けは厳 密な基準によらず私的なため、量的結果は大まか な目安と見なされる

[1] 突出した才能

- ① 突出知能 知能検査で130以上等、高いIQ・指標
- ② **突出学力・技能** 数年上の学習、進んだ検定、 コンテスト優秀賞など
- *突出した明確な指標に言及した回答をカウントしたが、同等に多様に優れた(特異な)才能も多く認識された: その意味での才能は「普通より優れた能力・創造性・傾倒」 (レンズーリ) と大まかに定義でき、領域毎に特異な程度は連続的に表れる
 - →才能を個別プログラムの識別基準(IQ130以上等)で 定義してどの個人が「才能児(gifted)」かラベル付けする のではなく、どんな状況で「才能行動」を示すのかを見出す べきことが示唆される

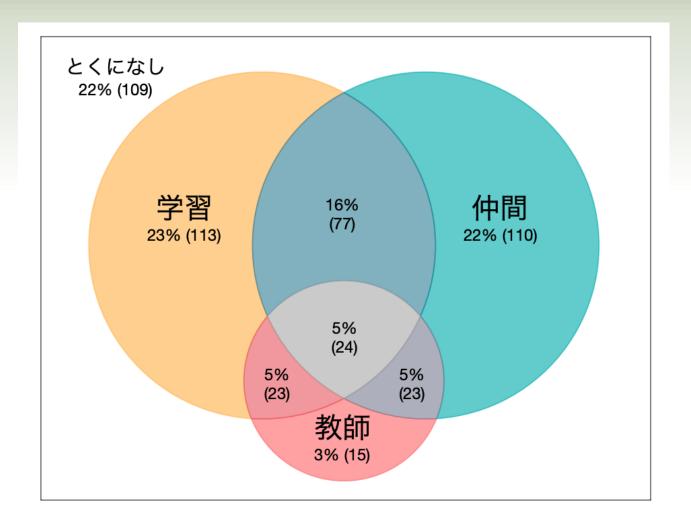


(カッコ内は人数. 計494名)

- 図1 突出した才能を記載した人数比率
- *突出なしでも全員緩やかな才能事例があった

[2] 学校で才能特性に起因する困難

- 学習面 授業が簡単すぎて退屈・苦痛、反復嫌う、 興味のない授業は受けない、画一的強制嫌う
- 仲間との対人関係 難しい話が合わない(相手に合わせようとする)、いじめ、集団行動苦手、行事嫌う
- 教師の対応 才能特性の無理解・否定、質問を 叱られる、挙手・発言を無視
 - *一方で、学校内で担任や特別支援の教師から受けたけた けた才能への支援も約1割(52名)で挙げられた
 - *興味・能力を理解、褒める、個別の配慮: 課題・宿題・読書



(カッコ内は人数. 計494名)

図2 才能による困難の各種記載人数比率

- *緩やかな事例を加えると記載人数は更に増える
- * これとは別に障碍による困難への言及も見られた

[3] 才能児(gifted)個人のタイプ

- ●2E [次ページ注] 突出2E(2E&突出した才能)
- ●GDF*(2E以外&困難:才能起因)●突出GDF(GDF&突出)
- その他(才能による困難または障碍への言及がない)

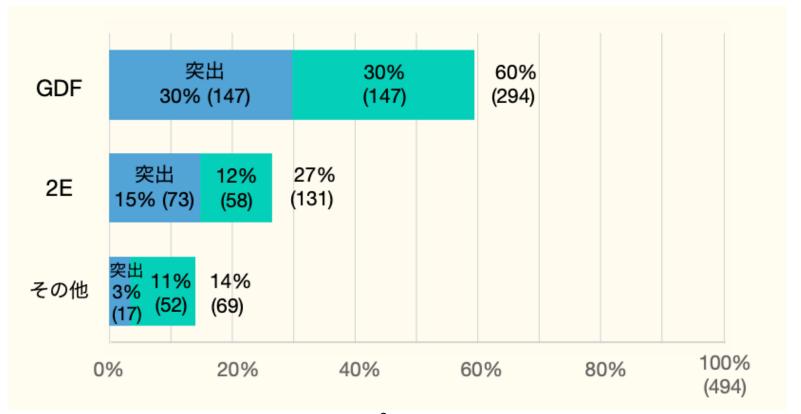


図3 才能児個人タイプ別の人数比率

★第1回会議松村資料,『才能教育·2E教育概論』参照

●タイプ分けからの示唆

- ▼今回の回答者(保護者)の子ども(小学生:幼児含む)
- ◆ 2E*の児童は3割近く見られた
 - *才能と併せて障碍特性に言及(私の暫定的解釈)
 - *何らかの特別支援を受けている児童が約4割 (206名)見られたことから、傾向を含めて 更に多いと推測される
- → 才能による困難に言及した、2E以外のGDF (不協和感のある才能児) は6割見られた
 - *明解な規準で集団に線引きできない
 - *GDFは不適合な状況の表れで、人物ラベルではない
- ◆ 2EおよびGDFの半数以上に「特異な才能」 (突出した才能) が見られた

「ギフテッド」という回答表記

- ◆ 一部の回答者は「ギフテッド」と表記
 - 記載された児童の多く:
 - ①高IQ(知能検査で)
 - ②才能が突出しなくても学習・社会情緒的困難を 伴う才能児(2E・GDFに含まれる)

●不登校の問題

◆ 不登校(傾向=登校渋り含む)は3割近く (142名)で言及が見られた

●期待する支援の回答分析の留意点

- ◆ 今回の調査: ギフテッド(2E・GDF・不登校等の表れ混在)保護者団体からも多く回答が寄せられた様子:母集団が偏るが、関心・議論の高まり
- ◆ 自由記述で回答文章に著しい長短があり、力 テゴリー別計数は妥当でない。望まれる支援でも、 保護者がわが子に痛切に求める場合と、一般論と して賛成する場合が混在した(例:算数飛び級)